

移動市長室

みちしるべ

— ゲスト(目の不自由な方)との心のふれあい —



通算102回目となる移動市長室を、8月28日(金)にカミーリヤで開催し、みちしるべの会員10人と懇談を行いました。



白杖を持ったゲストのガイドを実演

考えてもらえるよう意識しています。

交流会は工夫をこらして

ゲストと一緒に楽しめる体験の場をつくりたいと、年に数回、バスハイクや食事会、福岡常葉高校との交流会などのイベントを実施しています。特にバスハイクでは、船に乗って波の音や潮風を感じたり、足湯に浸かったりと、耳や肌で楽しめるような企画が盛り込まれています。遠方へ出かけるため、ゲストが安心して参加できるようコースを下見し、トイレや食事など細かいところまで確認しているそうです。

所づくりを目的に、交流会や福祉学習など、精力的な活動を行っています。

思いやりのガイドを

みちしるべの外出支援の利用は、筑紫野市社会福祉協議会(社協)を通して行われます。買い物や習い事、通勤、ときにはカラオケなど、ゲストのニーズに合わせて幅広く対応する親しみやすさが特徴です。会員は、毎年、歩行介助訓練などの研修を重ね、安全な支援活動を心がけています。

障がいについて考える機会に

ガイド開始の合図は、ゲストの白杖を持っていない方の手の甲に触れること、などの実演を交えながら、ガイドのポイントを紹介してもらいました。

子どもたちの視覚障がいに対する理解を深めるため、市立小学校での福祉学習や、社協主催のサマーボランティアスクールに講師として参加しています。ゲストによる講話や、アイマスクをして歩く体験などを通して、子どもたちに障がいを身近に

視覚障がい者に寄り添い20年以上

みちしるべは、視覚に障がいのある人の外出支援などを行うガイドボランティア団体です。平成4年から活動を始め、長年の実績が認められ、平成29年に社会福祉功労者に対する福岡県知事表彰を受けました。現在の会員数は16人。ガイド利用者である「ゲスト」の外出支援のほか、居場



代表の荒木さん

心のふれあいを深めて

ゲストと同じ時間・空間を過ごすときがとても大切だと話す会員の皆さん。定期的にゲスト宅を訪問したり、災害警報発表時に声かけを行うなど、活動外でも交流があるそうです。

活動報告の中で紹介されたゲストの動画では、「交流会に参加して楽しかった」「対等な関係でいられる」などの感想がありました。会員も「相手の尊厳を尊重することを心がけています」と話し、深い信頼関係がうかがえました。

代表の荒木祐輔さんは、会の今後



点字ブロックの突起によって意味が異なります

について「ゲストに喜んでもらいたいという気持ちが一番。「できるときにできることをしよう!」を合言葉に、一緒に活動する仲間を増やしていければ」と思いを語りました。

参加者の感想

・市長に私たちの活動を知っていたんだということが会員のやりがいにつながります。ありがとうございます。

・市長のお考えやお気持ちを直接聞けてとても良かったです。移動市長室を今後も続けていきたいです。



藤田市長の一言

皆さん方が熱心に、相手の気持ちに寄り添って、自分たちでできることを精いっぱいやりととされているのがひしひしと伝わってきました。相手の尊厳を大事にしながら、なお一層その人たちの人生を豊かにするために活動してあるのだろうと強く感じました。

私も、市民に対して優しく、そして障がいのある方に対する思いをより一層深め、今回皆さんに学ばせていただいたことを大事にしながら、今後とも市長としての役目を果たしていきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

